

贅沢は敵？

シンガポールのラッフルズ・ホテルなど、世界の一流ホテルを巡って個展を開いている、パリ在住の美術家、アントン・モルナーさん(41)が来日し、都内のホテルで作品展を開いた。

彼の絵には、ホテルの調度品のほか、エルメスのスカーフ、葉巻入れなど、贅沢品の数々が登場する。

「贅沢を敵のようという人もいるが、人間は本来、そういうものを探しているんだと思う。エジプトのピラミッドも、多くの人を犠牲にしてつくられた。贅沢品”だけど、何百年たってもみんなの注目を集めている。そんな作品を残したい」

旧ソ連統治下のハンガリーで育ち、不自由な暮らしをしたことも、そんな思いに結びついていくのだという。

私生活は「ごく普通」だというが、持っていた革のボストンバッグは「ヴィトンより古い」年代もの。「ビール片手に短パン姿でバーベキューをした翌週に、モナコの皇太子と食事をすることもある」とか。

古川雅子

photo 鈴木愛子



AERA
ASAHI SHIMBUN
JAPAN